

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	病院外心停止に対する包括的治療体制の構築に関する研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	日本全国で発生した院外心停止例のうち、救急隊が蘇生処置を行い、登録医療施設に搬送されたもの。救急医学会会員が所属する施設を中心に登録医療施設を広げ、最終的には医療機関に搬送された全ての院外心停止症例を対象とすることを目指しています。
③概要	本邦では年間 7 万人を超える心臓突然死が発生しています。病院前救急医療の発展により、院外心停止例の社会復帰率は改善してはいますが、いまだに 8%程度と非常に低いです。更なる社会復帰率向上のために、病院到着後の集中治療の効果が期待されますが、その治療実態と効果は明らかでなく効果的な治療法、適切な搬送先選定基準は確立されていません。以上により、院外心停止例の搬送先病院の治療体制及び、低体温療法などの病院到着後の集中治療に関するデータを全国で前向きに登録・分析し、『搬送先病院の選定基準、有効な集中治療など院外心停止の社会復帰率を向上させるための治療ストラテジを検討すること』を目的とした研究です。
④申請番号	2019-0427
⑤研究の目的・意義	院外心停止患者における搬送先病院の選定基準、有効な集中治療など院外心停止の社会復帰率を向上させるための治療ストラテジを検討すること
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2025 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	病院到着後の集中治療に関するデータを全国で前向きに登録・分析、病院選定や病院での治療に役立てることが目的です。
⑧利用または提供する情報の項目	①病院前蘇生記録：目撃状況、居合わせたものによる心肺蘇生の有無、蘇生処置の時間経過、初期心電図波形等 ②搬送先病院の治療体制：病院の規模、救命センターか否か。心停止例への対応時の体制等 ③病院到着後の治療：低体温療法、体外循環といった集中治療の有無・方法と経過等
⑨利用する者の範囲	日本救急医学会及び全国救命救急センター（50 施設以上）
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学医歯学総合病院高次救命災害治療センター 副部長 本多忠幸 京都大学 環境安全保健機構附属健康科学センター 石見 拓

⑪お問い合わせ先	所属：新潟大学医歯学総合病院高次救命災害治療センター 氏名：本多忠幸 Tel：025-227-2338 E-mail：emccm@med.niigata-u.ac.jp
----------	---